



かがやき

かんがえる
かんばる
かたさえる
かぎ

鳴鼓小学校
立町津時 第6号

令和4年7月20日
文責：校長 今井大輔

楽しく充実した夏休みを

「みなさん、こんにちは。ただいま5時45分です。小学生のみなさんは、お家(うち)へ帰りましょう。中学生・(略)五つのおしおりを守っていますか?家に帰ったら・・・」と、町内放送でこの声が聞こえてきたら、毎年このとながら「ああ、夏休みだなあ」と実感します。

七月七日(木)に鳴鼓小六年生五名によるこのアナウンスの収録がありました。カナリーホール内の音響スタジオで、スタッフの指導の下、夏・冬・春休み用を録音しました。夏用：大槻来莉愛さん、永瀬莉愛さん、松田晴斗さん、冬用：酒井薫さん、春用：吉村澄海さんです。五名とも大変じょうずにアナウンスができ、スタッフの方にも誉めていただきました。

七月二十一日の夕方から放送されます。この五名の顔をご存知の方は、顔を思い浮かべながら聞いてください。また、夏休みは、アナウンスの内容通り、五つのおしおりを守って、楽しく充実した日々を送れるようにしてほしいと思っています。



学校支援会議

七月十四日に学校支援会議が行われ、地域の目から見た気付きやご意見をいただきました。

- ・児童の健康に関すること。
 - ・登下校や学校外での安全に関すること(交通や遊具、不審者対応)
 - ・集団登校やあいさつについて
 - ・ランドセルや手荷物について
 - ・コロナ感染対策について
- これらの話からは、地域の方が子供たちをしっかりと見られていることや、大きな期待がこめられていることがよく分かりました。今回いただいた意見を今後の教育活動に生かしていきたいと思えます。

学習者用端末機の持ち帰り

時津町内小学校四校共通の試行として、学校で使用している学習者用端末機(クロームブック)を、夏休み後半に持ち帰らせてます。使用に関する詳しいルール等は、九日(火)登校日に文書を配付しますので、その内容に準じて使用させてください。

- ・持ち帰り日↓ 八月十九日(金)
- ・対象学年 ↓ 三年生、六年生

安全に家庭間との端末機を移動させるために、端末機を入れるクッション性のある入れ物を用意していただくと助かります。百円ショップ等にあるもので十分です。端末機のサイズは(30cm×21cm、厚さ2cm)です。

また、タッチペンやイヤホンがあると更に使用しやすくなります。(ご家庭にある物、安価な物で結構です。)

「三年ぶりに…」

この一学期間を振り返ってみると「三年ぶりに…」というフレーズを多く使ったように思います。「有観客の運動会」から始まり、「子供の手によるプール掃除」、「土曜授業」、「水泳学習」、「地区PTA懇談会」など、この二年間新型コロナウイルス感染拡大によって見合せてきた事が動き出しました。感染拡大状況は、以前にも増して厳しいものの、新型コロナウイルスに対して「正しく恐れ」る。「感染対策を十分に行って」を念頭に、「教育活動を行っていきま」す。

様々な活動を行う度に、子供たちの生き生きとした姿や満面の笑顔が見られた時には、職員一同「やっつよかった」と、心から思いました。今後も、子供たちの安全を第一に考えた上で、意義ある教育活動を行っていききたいと思っています。

夏休み中も報告をお願いします

鳴鼓小のお子さんが、夏休み中に万が一新型コロナウイルスに感染し、陽性判定が出た場合、学校へご連絡ください。よろしくお願ひします。



すっぽり入る感じの物が使いやすい

つぎやき

「月が出た出た、月が出たくーアヨイヨイ」私が生まれて育った町は、炭鉱で栄えた所で、閉山後数年しか経っていないと櫓が組まれ、盆踊りが行われていた。「炭坑節」に「長崎ぶらぶら節」など、幼き頃は、意味も分からず友達と一緒に歌いながら踊っていたものだった。五十年近く経つのに、櫓や出店、踊っている様子を今でも覚えて

子供の頃に経験した地域での行事やイベントを大人になっても覚えていないことは、誰にでもあるのではないだろうか。地区や子供会主催の小さなお祭りや夏休み恒例のラジオ体操など、この鳴鼓小校区内でも盛んに行われてきた。私も我が子と左底中公園の出店に行ったり、出店したりしたことがある。現在は、コロナ禍で中止されているが、数年前までは行われていたのだ。記憶に新しい方も多いことだろう。今年度も残念ながら、町ペロンや時津夏まつりは中止になってしまった。

振り返ると、人生の中で幼少期というのは、あつという間に過ぎていってしまうものである。今の子供たちが成長し、大人になった時も、「小さいときに○○だったな。」と懐かしめるような行事やイベントが以前のように行われることを心から願っている。おそらく今後、ウイズコロナ、または新たなウィルスに対応しながらの実施となっていくだろうが、学校や地域で行う行事やイベントが、子供たちにとって貴重なものになるよう、大事にしていきたいと思っている。